



『続・ふらっとホーム』（昭和への旅?!）
林 保明



昭和レトロがブームだそうだ。来年は昭和で数えると「昭和 100 年」になると言う。そのせいでも無いだろうけど、若い世代には昭和の風景が新鮮に感じられるらしい。コロナ過に古いモノクロ写真を整理してみた。その中で 1988 年 6 月に撮った東京駅のホームでの光景が目についたのでスキャナーで取り込んで見た。今では見られない九州からのブルートレインの到着風景が写っていた。

旅情と言う言葉がある。旅のしみじみした感情を表した言葉だけれど、最近はあまり聞くことも無い。旅の感じ方も昔とは変わってきた気がする。

これらの写真を撮ったすぐ翌年には昭和が終わり、1 月 8 日から平成と年号が変わった。めまぐるしく世の中が動いていた気もするけど、ローカルな観点からちょっと振り返ってみようと思う。

これまでの国鉄が分割民営化されたのが前年の 1987 年 4 月、磁気切符による自動改札もこの頃から徐々に始まったようだ。（関西は 1970 年代からあったと言う。）

88 年ソウルオリンピック、89 年に横浜博覧会。「みなとみらい地区」はこの頃から発展していった。写真を見ると東横線桜木町駅の改札はすでに自動化されていたが、JR の改札口には切符切りの駅員が立っていた。（定期券を見せる姿が懐かしい！）

1990 年代初頭にバブル崩壊、その後「失われた 30 年」と言われるけど、Suica の登場が 2001 年、このあたりから世の中が急激に変わり始めたような気がする。



東横線桜木町駅（1988 年 6 月、横浜）



東横線桜木町駅（1988年6月、横浜）

この頃の社会は、人と人との繋がりは対面が基本であった。物を買うにしても電車に乗るのでも、人を介して社会生活が営まれていた。改札口に人が立ち出札窓口で駅員から硬券を買ってハサミを入れて電車に乗った。電話や手紙でさえ今と違って、会ったことの無い人がいきなり相手になることは殆ど無く、顔見知りの場合が多かった。だからコミュニケーションや生活の手段は基本的に生身の人の手を介して繋がっていた気がする。

やがて90年代に入ってインターネットが普及し始め、電子メールが使われ始めた。情報化社会、デジタル化、ウェブサイト、SNS…。

コミュニケーションが対面ではなく、キーボードを介した味気ないものになっていった。

そう言う意味では80年代はまだまだ、おおらかな時代だったような気がする。

1988年（昭和63年）6月、この頃は人をよく撮っていた。肖像権などと言う言葉はまだ一般的ではなかった。駅のホームに立ち、行き来する人の人間模様を観察していた。スナップショットの練習には恰好の場所だったのだ。

車内販売の女の子たちがふざけ合っていたり、エレガントな外国人女性も時折通った。Vサインをしている女の子が写っているけど、僕に向かってしていたのだろうか？（そういえばこの頃はモテたような気がする。）



時刻表を見る老夫婦はまさに典型的な老夫婦といった感じで、何か時代を感じさせてくれる。東京駅（1988年6月、東京）





東京駅新幹線ホーム（1988年6月、東京）





東京駅（1988年6月、東京）



8			静岡	10	19	19	7	
9			平塚	10	29		8	
10			国府津	10		29	8	
7	踊り子2号	伊豆急下田	10	39	39	10	※指自	
7		島田	10	47	47	8		
8		国府津	10	56	56	7		
9	みずほ	熊本・長崎	11	00	00	10	A B B4	
0		小田原	11	04	04	8		
7		小田原	11	10	10	7		
3		沼津	11	23	23	7		
0	さくら	長崎・佐世保	11	26	26	10	A B B4	
		平塚	11	37	37	7		
		沼津	11	44	44	9		
	踊り子4号	伊東・修善寺	11	50	50	8	※指自	
		小田原	11	57	57	9		
		熱海	12	06	06	7		
		熱海	12		17	7		
		熱海	12	19		7		
		平塚	12	29	29	9		
		熱海	12	39	39	8		
	踊り子6号	伊豆急下田	12	44	44	10	※指自	
		平塚	12	51	51	8		

東京駅（1988年6月、東京）



やがて九州からの夜行特急が続けて到着する。ホームがひとしきり賑やかになる。

迎えに来る人の表情も様々だ。期待に胸を膨らませる人もいれば、不安げな表情の人もいる。老夫婦はまだ待ち人に出会えていないようだ。

実習生？の腕章をつけた若い車掌さんは、お土産を持ってブルートレインから降りてきた。時間がゆっくり流れていた気がする。実際には今とそんなに変わらなかったのかもしれないけれど、自分自身に時間の余裕があったのだろう三十数年の時間は大きい。暇に任せてこの頃撮ったネガが大量にあるけど、保存状態が悪くほとんどが劣化してしまっている。僕自信も日々体力が劣化して、ネガとおんなじ人生を辿るような気がする。



長い時間をかけて、はるばる長崎・熊本から到着したブルートレイン「みずほ」、この時代には「あさかぜ」「さくら」「富士」「はやぶさ」と、5本の特急列車が東京と九州の間を行き来していた。

夜の闇を走る列車や、途中一人・二人と降りて行く駅には物語があり、モノクロームの写真にはそれぞれの人生が写っているように思う。この頃の終着駅にはどんな物語や人生があったのだろうか？



東京駅（1988年6月、東京）





東京駅（1988年6月、東京）





東京駅（1988年6月、東京）



東京駅（2024年5月、東京）







東京駅 (2024年5月、東京)



東北新幹線の東京駅乗り入れは1991年の6月、それまでは上野駅始発だった。上越新幹線も乗り入れ、いよいよ新幹線の時代が本格化した。駅構内の配置が変わりホームの改良工事や拡張工事が行われ、今は23番線までが新幹線ホームとなっている。

時移り2024年5月末のある日、新宿へ行く途中に東京駅へ立ち寄ってみた。到着時刻表を見て、何番ホームで待つと言うのが昔は定番だったが、あちこち探してもそれが見あたらない。東北新幹線隣の10番線ホームで、熱海行きの電車が入ると言うので、新幹線と並んだ写真を撮ろうとカメラを構えて居ると後から電車が……。

東京駅は終着駅ではなくなって、上野東京ラインでつながった事を忘れていたのだ。

その他、久しぶりにホームで写真を撮っていると戸惑うことばかり、キオスクは綺麗なコンビニに変わっている。(これはかなり昔から?)

せめて特急「踊り子」号の到着風景を撮りたかったが、東海道線でトラブルがあり、電車が遅れていると言う放送があったので、先に発車する品川行きの常磐線電車を撮って新宿に向かう事にした。

バブル崩壊後を一口に「失われた30年」と言うけれど、経済は低迷していながら、世の中は大きく変わったと思う。

駅チカに加え駅構内を利用した駅ナカが次々に誕生し、東京駅の待ち合わせ場所「銀の鈴」も地下広場に移った。通路の両側にはお土産やスイーツの店が並び、大きなスーツケースを持った外国人が大勢行き交っている。

まるで外国の空港にでも来たような雰囲気だけれど、僕には松田聖子ちゃんカットの女の子が通路に溢れていた、あの昭和の時代が懐かしい。



ダイヤモンド地下街 (1988年6月、横浜)



ダイヤモンド地下街 (1988年6月、横浜)

Kindleストアから電子書籍を出版しました。

新つれづれ草12号には
前作の『ふらっとホーム』

